

NEWS

病院ニュース

2014年1月
第36号
(年4回発行)

- 主な内容
- 1 田村厚労大臣を迎え
第3回「高齢社会を考えるシンポジウム」を開催
・病院長 新年あいさつ
 - 2 内科・外科の区別なく、臓器別に診療します
-新しい外来診療棟完成でこう変わる-
 - 3 「NIPT外来」で、赤ちゃんの遺伝学的検査を行っています
・[ミニニュース]小児病棟で劇団ニッキが人形劇「うさぎとかめ」を上演/
医療安全推進週間「いい医療に向かってGO」/
恒例のイルミネーションが病院を明るく照らす
 - 4 千葉大学病院のレストラン
・[トピックス]老眼
・「ちばをてくてく」@「千葉市の散歩道」千葉氏ゆかりのコース



千葉大学医学部附属病院 〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

ホームページで「病院ニュース」のバックナンバーをご覧いただけます。

田村厚労大臣を迎え 第3回「高齢社会を考えるシンポジウム」を開催

地域と医療機関との連携で、超高齢社会を明るくものに

11月2日(土)
西千葉キャンパスけやき会館



田村憲久厚生労働大臣



大武美保子准教授 (千葉大学) 神野真吾准教授 (千葉大学) 石井邦子教授 (千葉県立保健医療大学) 水野創氏 (千葉県経済同友会副代表幹事) 明石要一名誉教授 (千葉大学)

千葉県を含む首都圏では、急速かつ大規模な高齢者人口の増加が見込まれています。そうした中で「あかるい未来」を実現するには、さまざまな社会システムの改革が必要になってきます。千葉大学病院では、地域の皆さまといっしょにこの課題に取り組むため、「高齢社会を考えるシンポジウム」を開催しています。

「あかるい未来」を切り開く人材の育成を行っています。



副院長・高齢社会医療政策研究部長 高林 克己(司会)

本院では、今後とも地域の皆さまといっしょに、超高齢社会に関する研究や「あかるい未来」に取り組んでまいります。

田村大臣は、本学の卒業生でもあり、学生時代のエピソードを交えながら、超高齢社会における今後の医療や福祉に関する展望を分かりやすくお話しいただきました。認知症をはじめとする医療需要の増加とそれに対応した医療提供体制のあり方、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で生活を続けられる地域包括ケア体制の構築に向けた取り組みなどに、来場者は熱心に聞き入っていました。

田村大臣は、本学の卒業生でもあり、学生時代のエピソードを交えながら、超高齢社会における今後の医療や福祉に関する展望を分かりやすくお話しいただきました。認知症をはじめとする医療需要の増加とそれに対応した医療提供体制のあり方、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で生活を続けられる地域包括ケア体制の構築に向けた取り組みなどに、来場者は熱心に聞き入っていました。



パネルディスカッションでは、「あかるい未来」について活発な議論が交わされました

医療コミュニケーションをつくる年に



千葉大学医学部附属病院院長 宮崎 勝

あけましておめでとうございます。

2014年は、千葉大学病院が新しいステージに向かう年。希望に満ちた思いで、新しい年を病院職員スタッフと共に迎えました。

病院再開発の工事では、病院にいらつしやる方、近隣の方々にはご不便をおかけしましたが、今年はいよいよ新しい外来診療棟がオープンします。これまでひがし棟の新設、にし棟改修とリニューアルが完了しましたが、病院の入口である外来診療棟が完成するのは、医療環境を整備するという意味において非常に大きなことだと思っています。

新しい外来診療棟には、さまざまな概念が取り入れられています。より高度な医療空間となることに加え、患者さんが私たち医療人との、また患者さん同士のコミュニケーションも取りやすい、開かれた空間になるよう設計しています。

これは病院の建物ですが、利用される患者さんのものでもあります。新しい外来診療棟によりよい医療環境を提供できることは、そこで働く私たちもうれしいですし、それを皆さまにプレゼントできるのも、とても喜ばしいことです。

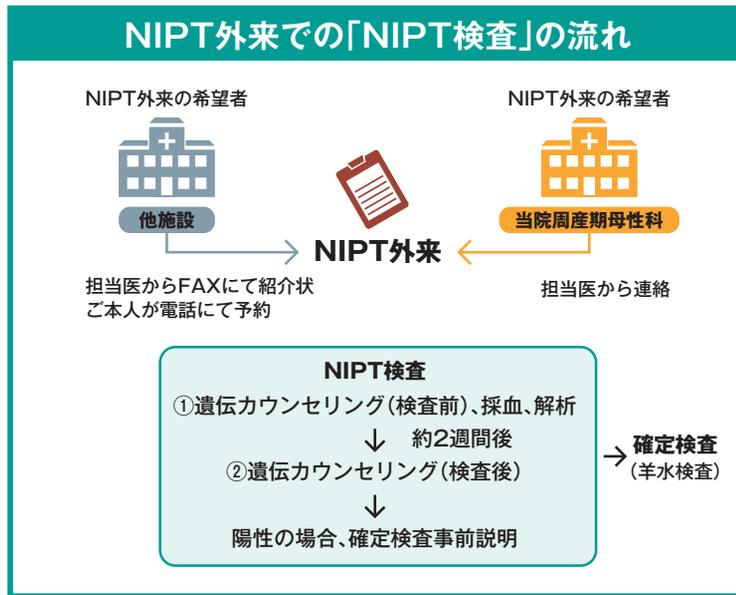
大学病院の医療はますます高度化しています。ありがたいことに本院は、多くの患者さんが来ていただけているという状況が続く、昨年は初めて国立大学では病床稼働率がトップになりました。これには職員たちの努力があるのはもちろんですが、患者さんが病院に期待してくださっていることの表れであると考えています。

皆さまからいただいたあたたかい評価を大切に、今年も、患者さんとの医療コミュニケーションをつくる年にしたいと考えています。どうぞ、千葉大学病院をご利用くださいますようお願い申し上げます。



「NIPT外来」で、赤ちゃんの遺伝学的検査を行っています

～母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査～



昨年11月より遺伝子診療部内に開設された「NIPT外来」では、臨床遺伝専門医4名と認定遺伝力カウンセラー2名が診療を担当し、週2回「NIPT検査」を実施しています。

「NIPT検査」とは、無侵襲的出生前遺伝学的検査 (Noninvasive prenatal genetic testing) の略で、赤ちゃんの遺伝学的検査を行う方法をいいます。妊婦の血液(20ml)を採取し、血液中を浮遊しているDNA断片を分析することで、胎児が13、18、21※トリソミーの3種類の染色体疾患であるかどうかを検査するものです。

この検査は、臨床研究の一環として認定を受けている研究実施施設で行われるもので、当院でも実施しています。検査は、次のいずれかに当てはまる方が対象となります。

- ① 高齢妊娠(分娩予定日に35歳以上)である
- ② 13、18、21トリソミーを持つお子さんを妊娠、あるいは分娩したことがある
- ③ 超音波検査や血清マーカー検査などによって、胎児が13、18、21トリソミーを持つ可能性がある」と指摘されている

この検査を希望される方は、ご夫婦揃って遺伝カウンセリングを受けることが必要です。採血は妊娠10週以降に行い、検査結果は約2週間後に報告されます。

ご注意ください。この検査は高い精度をもっていますが、赤ちゃんの染色体疾患を確定する検査ではないということです。結果が陽性であった場合には、確定診断のための羊水検査などが必要になります。

*トリソミー：通常ヒトの染色体は23対の2本組み構造ですが、そのうちの1対が3本組みになっている場合をいいます。トリソミーの前の数字は、3本組みとなっている染色体の番号を表します。21トリソミーはダウン症候群と呼ばれます。



周産期母性科 長田 久夫

NIPT外来お問い合わせ先 TEL/FAX 043-226-2325

mini news

小児病棟で劇団ニッキが人形劇『うさぎとかめ』を上演

●11月22日(金)
小児病棟に入院している子供たちに楽しいひとときを過ごしてもらおうと、11月22日(金)に劇団ニッキによる人形劇を上演しました。演目は、『うさぎとかめ』。演者の巧みな話術と人形の動きに、子供たちは夢中。初めは緊張気味だった子供たちも、お話の途中からは、「かめさんガンバレ!!」と声援を送る場面も。みんな「楽しかった」「面白かった」と、笑顔を見せてくれました。



医療安全推進週間 「いい医療に向かってGO」

●11月24日(日)～30日(土)
当院では、11月25日(いい医療に向かってGO)を含む11月24日からの1週間を「医療安全推進週間」とし、ポスター掲示や患者さんにクリアファイルを配布するなど、「いい医療」を呼びかけました。

クリアファイルに「患者さんは安全な医療のパートナー」と印字されており、安全な医療を行ううえで患者さんの協力は必要不可欠です。「入院時のリストバンド装着」や「フルネーム確認」など、皆さまのご協力をお願いいたします。



恒例のイルミネーションが病院を明るい雰囲気

●12月2日(月)
年末年始の風物詩となった外来入口前のイルミネーション。今年も点灯式を開催しました。

カウントダウンで病院長、看護部長、事務部長の3人が点灯スイッチを入れると、一斉にまばゆい光に木々が照らされ、ファンタジックな雰囲気に。見に来ていた人たちからも、「わあ、キレイ」と歓声が上がりました。点灯式後には、写真を撮りに訪れた人たちで

にぎわいました。

「このイルミネーションで、患者さんの心が和み、気持ちを休めてもらえたらうれしい」(病院長)「病院職員も、きれいなものを見て楽しく仕事をしてもらいたい」(事務局長)

このイルミネーションは1月13日まで点灯の予定です。

看護師・助産師 募集中

心と技と責任

その重さを知っている人。それが、千葉大学医学部附属病院の看護師です。

- 資格：平成26年3月卒業見込みで、看護師・助産師免許取得見込みの方、又はすでに免許を取得されている方
- 待遇：当院規定により優遇します
- 応募：履歴書・看護師等の免許証(新卒の方は成績証明書)を郵送ください。なお、選考日・応募先については本院HPを参照してください。※中途採用応募の場合は、事前に電話でご連絡ください。
- 応募またはお問い合わせ先
TEL: 043-222-7171 総務課人事係(内線6021) 看護部事務室(内線6610)



千葉大学医学部附属病院

詳しくは看護部ホームページから
<http://www.chiba-kangobu.jp/>

看護補助者
同時募集

詳細についてはお電話にて
お問い合わせください。

Heart, Skill & Responsibility

内科・外科の区別なく、臓器別に診療します

新しい外来診療棟完成でこう変わる

新しい外来診療棟の完成は、面積や診察室の数が大幅に増えるだけではありません。外来診療の質や内容も大きく向上します。



ひろびろとした2階エレベーターホール



循環器系、呼吸器系が入る予定の2階外来受付前



3階までの吹き抜けアトリウムに面した2階待合ホール

**患者さんによりわかりやすく、
医師らの連携もスムーズに**

多くの診療科と関わる「総合診療部」や「高齢者医療センター」は、1階正面玄関入ってすぐの左側という、もつともアクセスのよい場所に変わります。また、その少し奥には、「脳神経外科」「神経内科」が同じブロックに配置されます。

2階より上の階も同様です。病院の外来は、内科系と外科系に大きく区分されていることが多く、現在の千葉大学病院もそれに倣っていましたが、新しい外来診療棟では、臓器別に区分されます。消化器系の診療科（消化器内科、肝胆膵外科、食道・胃腸外科）は2階の西側循環器系（循環器内科、心臓血管外科）や呼吸器系（呼吸器内科、呼吸器外科）は2階の東側というように、内科外科の区別がない配置になります。

患者さんにわかりやすくなることも、検査や処置の器械を効率的に配置することができるようになります。また、同じ臓器を診療する内科医、外科医間のコミュニケーションもよりスムーズになるでしょう。

3階の東側には、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科、眼科が並びます。「見なんの関係もなさそう」な3つの診療科ですが、「糖尿病コンプリケーションセンター」として機能します。患者数が年々増加する糖尿病は、網膜症や腎症などの重い合併症（コンプリケーション）があります。このセンターでは、糖尿病の治療と並行し、患者さんの生活の質を保てるよう合併症の管理を行っていきます。

4階の西半分は、内視鏡を使った検査、治療を行う光学医療診療部になります。日帰り治療の適応が増え、その重要性が増している分野です。病院全体の内視鏡も管理し、感染予防にも貢献します。

外来診療棟フロア案内(予定)

新しい外来診療棟	既存の外来診療棟 (改修後)
5F 外来化学療法室、放射線科、和漢診療科、臨床研究センター	検査部、遺伝子診療部
4F 光学医療診療部、耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科・顎・口腔外科	整形外科、入院センター(仮)
3F 婦人科、産科母性科、泌尿器科、皮膚科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科、眼科	薬剤部、地域医療連携部
2F 消化器内科、肝胆膵外科、乳腺・甲状腺外科、食道・胃腸外科、循環器内科、心臓血管外科、アレルギー・膠原病内科、血液内科、呼吸器内科、呼吸器外科、感染症管理治療部	
1F 脳神経外科、神経内科、高齢者医療センター、総合診療部、医事課、医療サービス課	
B1 麻酔・疼痛・緩和医療科、形成・美容外科、精神神経科、こどものこころ診療部	

ひろびろとした 診療空間になります

正面玄関入ってすぐの広い空間、ホスピタルストリートは、まるで病院ではないような雰囲気。3階まで吹き抜けのアトリウムや、緑豊かな周囲の環境と連続するかのような植栽も、心をやわらげることでしょう。玄関横には、一息つけるコーヒーストップもオープンします。診療の待ち時間などに、ご活用ください。

新しい外来診療棟では、ストレスフリーな環境を目指しています。たとえば、マイクでの患者さんの呼び出しをいたしません。現在試運転中の案内ディスプレイに加え、患者さんの携帯電話に直接メールでお知らせするシステムを導入します。院内のごでお待ちいただいても構いません。携帯メールが届いたら、受診科にお越しいただき、案内ディスプレイの表示に従って診察室にお入りください。



副病院長(医療開発・将来計画担当)
山本 修一

平成26年7月オープン予定



患者さんにうれしい工夫がいっぱい！ 千葉大学病院のレストラン



車椅子でも利用しやすいテーブル配置など、各レストランのサービス・工夫を人気メニューとともに紹介します。

展望レストラン ヴァンセーナ

ひがし棟11階
10時～20時

「病院でも、一流レストランの味を」と岡部栄シエフ。和漢診療科と共同開発した薬膳料理「医食同源メニュー」は、テレビなどでも話題になった一品。この料理目当てのお客さまも多いそうです。すべての料理に通ずるのが、素材へのこだわり。野菜は県内で採れた旬のものを、そばは会津の手打ち生麺を使用しています。冷凍食材や化学調味料は使っていません。「うどんをペースト状に」といった患者さんからの要望にも、対応しています。天空の森をイメージした店内からは、千葉市内を一望でき、気分転換にピッタリ。ティータイムにもご利用いただけます。



特製オムライス820円

和食レストラン 桔梗

外来ホール棟地下1階
平日8時～17時



海老フライ定食1,130円

この店の一日は「本日の予約患者数」のチェックから始まります。混雑度を予想し、準備スタート。開店は朝8時。朝限定の和食セットやトーストセットなどは、遠方からのお客さまに喜ばれています。(朝メニューは10時まで)

内蔵の弱い方には雑炊が、食の細かい方にはミニ丼が人気。高齢の方のために、料理の写真をわかりやすく店内に掲示しています。東京下町から取り寄せている「生くずもち」は、とてもおいしいと評判。スタッフのあたたかな対応もお店の自慢。「明るい店員さんが通院の励みになる」というお客さまが多いのも納得です。

コーヒーショップ タリーズ

ひがし棟1階
平日7時30分～19時 土日祝9時～18時

ジャズが流れる落ち着いた店内では、患者さんが読書したり、会計待ちに一服したり、病院スタッフが打ち合わせや息抜きに利用したり。車椅子対応の低いカウンター、医療書籍の販売などは病院ならではの工夫。「実はここに入院していたんです。その時にいつも美味しい

コーヒーが飲みたいと思っていて」中澤亮店長。退院後にタリーズが院内に出店し、今では店長として働いています。入院患者さんから、退院後にお礼の手紙をいただくことも。誰でも記入できる「コミュニケーションシート」は、現在8冊目。お客さん同士や店員との交流が生まれています。



ハニーウォルナツドーナツ200円
カフェラテショートサイズ340円

ちばをてくてく 12 「千葉市の散歩道」 千葉氏ゆかりのコース

冬ウォーキングでリフレッシュ

冬こそウォーキング。防寒をしっかりすれば、冬の冷たい空気のなかを歩くのもいいものです。千葉市には「千葉市の散歩道」として20のコースが設定されていますが、今回は千葉大学病院周辺を歩く「千葉氏ゆかりのコース」をご紹介します。

スタートは「猪鼻城跡」。千葉県庁や県警本部、ビル群が見下ろせる亥鼻公園にある城跡で、豪族千葉常重が土気の大椎城から移って「猪鼻(いのな)城」を構えた、千葉の政治・文化発祥の地です。園内に建つ「千葉城(亥鼻城)」は、4層5階の天守閣づくり、展望室からは市内を一望できます。

医学部構内には「七天王塚」といわれる、7つの古塚が点在しています。千葉氏の守護神である牛頭天王(ごずてんのう)が祀られ、千葉氏の崇拝した北斗七星の形に配置されているといわれています。

ここから先も、緑豊かな「県立青葉の森公園」や「千葉寺」「文化の森」などが続きます。新年のはじめに、史跡や自然を楽しみながらのウォーキング。心も新たにやりそうです。

※図書館や区役所などにマップが設置してあります。

※千葉市の散歩道は、「千葉市観光ガイド」でも見られます。http://www.chibacity-ta.or.jp/

【コース】

猪鼻城跡→(20分)→千葉大学病院・七天王塚→(10分)→県立青葉の森公園→(20分)→千葉寺→(22分)→文化の森→(5分)→郷土博物館前(約4.5km 歩行時間:1時間17分)

猪鼻城跡へは、JR千葉駅よりバス「大学病院」行き「郷土館」下車、モノレール「県庁前」より徒歩10分



トピックス

「老眼」

生活スタイルにあった距離のメガネを

「老眼」とは、加齢によってピントの調節力が弱くなった状態をいいます。老眼は、どんな人にも起こり、早い人では40歳前後から何らかの変化を感じるようになります。今までより少し距離を離す方が読みやすい、小さな字が読みにくいという自覚だけでなく、眼精疲労のような症状が、老眼の始まりであることも少なくありません。加齢を認めたくない意識が働き、つい我慢して対応が遅くなりがちですが、早めの対策がおすすめです。

老眼対策の第一選択はメガネです。メガネには慣れが必要なので、老眼が進んでから初めて使うと、慣れるまでに余計に時間がかかります。度数の弱いレンズのうちから慣れた方が楽です。

遠近両用メガネは、レンズに境目が無く度数が連続的に変化する累進レンズを使ったものが主流で、一見ただけではそれが老眼鏡と分かりません。レンズ選びで注意したいのは、すべてがクッキリ見えるものはないということです。自分の生活スタイルで重点的に見たい距離を検討し、遠近だけでなく中近など、必要なら複数を使い分けるのが理想です。初心者にはファッション性を優先するよりも、レンズの縦幅が3cm以上のものを選択するのがよいでしょう。

(眼科 講師 佐藤栄寿)



あとがき

寒い日々が続いています。こんな時期には暖かい家の中で読書や映画などに浸るのも楽しいものですが、時には今号でご紹介しているようにウォーキングを楽しんでみてはいかがでしょうか。費用も掛かりませんし、少し急ぎ足で歩けば汗をかくほどポカポカになります。ネット検索をすると沢山のコースがヒットしますが、特別なコースではなくて

も手軽に始められるのも魅力です。私はもっぱら通勤途中で落語や音楽を聴きながら駅までの道のりをウォーキングしています。

さて、ご愛読いただきありがとうございました「病院ニュース」も、次号より装いを新たに全面リニューアルいたします。どうぞご期待ください。

(編集委員 検査部 澤部祐司)